

太田いそ賞・仲谷鈴代記念賞受賞おめでとうございます！



[左から]

太田いそ賞受賞

- ・認定栄養ケア・ステーションからふる
- ・一般社団法人栄養ケアチーム豊能 認定栄養ケア・ステーション
- ・認定栄養ケア・ステーション 特定非営利活動法人ケアプランニングNEST

仲谷鈴代記念賞受賞

- ・ひらかた地域活動栄養士会 栄養アドバイザー「萌」
枚方市役所 健康福祉部 地域健康福祉室 健康増進・介護予防担当
- ・地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター 栄養部

太田いそ賞

食べる喜びを暮らす喜びへ～いただきますのお手伝い～

認定栄養ケア・ステーションからふる 時岡奈穂子

この度は「太田いそ賞」をいただき誠にありがとうございます。在宅療養者の増加や食の困難の多様化に伴い、地域で管理栄養士の力がこれまで以上に必要とされる中、このような素晴らしい賞を賜り、メンバー一同大変励みになっております。

私たちは2013年羽曳野市の保健センターの事業を通じて知り合ったメンバーが中心となり任意団体としての活動を開始しました。地域には「在宅療養者が安心して食べられる環境づくりと、介護予防を担う栄養支援の資源が必要である」との思いから2016年に特定非営利活動法人を設立、徐々に食支援に取り組む多職種の参加が増えてきたため、2019年から管理栄養士の活動を認定栄養ケア・ステーションとして行っています。

当初より自分たちがこれから過ごす地域の30年後40年後を想像し、安心して笑顔で過ごせる地域で過ごせるようにと住民としての危機感と専門職としての責任を感じ様々な活動をし

て参りました。地域の様々な方にご理解をいただき、現在は南河内7市町村で総合事業における一般介護予防事業、地域ケア会議、訪問サービスCによる短期集中の介護予防訪問、医療介護での訪問栄養食事指導を展開し、介護予防から看取りまでをシームレスに栄養支援でつないでいける体制を整えています。

これまでの活動は、利用者、患者、そのご家族や地域住民の皆様から多くを学ばせていただきひとつひとつ積み上げて参りました。一人ではなしえないことでも同じ管理栄養士がグループとして活動することにより可能になったことが多くあります。活動を続ける中で見える課題も多くなってきましたが、これからも心強い仲間達と共に、食と栄養に関わる地域資源としての役割を全うすべくがんばって参りたいと思います。これまで同様、大阪府栄養士会の先生方、皆様方からご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

太田いそ賞

太田いそ賞を受賞して

一般社団法人栄養ケアチーム豊能 認定栄養ケア・ステーション 山下晶子

この度は、令和3年度の（公社）大阪府栄養士会定時総会において「太田いそ賞」をいただき、誠にありがとうございます。とても光栄なことと大変うれしく思っています。

栄養ケアチーム豊能は、大阪府栄養士会の在宅療養者食支援を行う管理栄養士の養成講座を受講した管理栄養士が集まって設立した栄養ケアチームです。チームの設立には、栄養士会の先輩方々のご指導をいただき、また保健所の方々にも医師会などへの周知にご尽力をいただきました。多くの方々に助けていただけてできたチームで、感謝の念に堪えません。今年で4年目を迎え、現在は、9名の管理栄養士で池田保健所管内、豊中市を中心に活動しています。

設立当初は、研修を受けたものの実践となると対象者のご家庭に伺うことになるので、緊張することが多く慣れるまで大変でした。訪問を続けていく中で、対象者の食事について話を聞き、その不安を少しずつ解決していくと対象者や介護者が笑顔に

なっていき、関わっている専門職のコミュニケーションもうまくいくという経験を何度かしました。食事は毎日のことで、その食事が落ち着いてくると生活全体が安定し、気持ちも和らいでくると感じています。「食べることは大切だ」と多くの方が言われます。管理栄養士の介入ができないケースが多々あります。私たちは、少しでもその方々の望む生活を実現していくために食の場面で支援できればと思っています。

昨年には、日本栄養士会の認定栄養ケア・ステーションにも認定され、訪問や診療所の栄養相談ばかりでなく、特定保健指導や糖尿病性腎症重症化予防プログラムなどにも活動の場を広げています。「すべてのライフステージにあった食事・栄養のサポート」「わかりやすい、実行しやすい指導」をモットーに地域に根差した活動を実践していきたいと考えています。大きな賞をいただいたとはいえ、まだまだ未熟なチームです。これからもご指導賜りますよう、よろしくお願いいたします。

太田いそ賞

太田いそ賞を受賞して

認定栄養ケア・ステーション 特定非営利活動法人ケアプランニングNEST 代表 爲房恭子

この度は、第38回「太田いそ賞」をいただき厚くお礼申し上げます。

私は、1993年大阪市訪問栄養指導事業〔(財)大阪市環境保健協会〕が開始されました時より参画し、在宅療養者の現状、在宅栄養管理の視点を学ばせていただきました。2000年に介護保険制度が創設され、やや閉じこもりグループがその対象となりました。入院患者と在宅療養者の立場の違いを知りながらも、在宅で医療ケアが必要な方に深く関わりたいという思いから2002年、同僚と「在宅療養者栄養支援 ケアプランニングNEST」を立ち上げました。2007年に多くの多職種の賛同者を得て、特定非営利活動法人として現在に至っております。

いくつかの団体から研究助成を拝受し、学会や研究会での現状報告と提案、訪問管理栄養士活動の広報に努めるため介護家族やヘルパー向きの調理講習会、多職種で在宅療養者を支援できる体制をつくるため多職種協働で栄養管理を考える講習会、訪問栄養士養成のための養成講座などを展開してまいりました。これらは、いずれも「訪問栄養食事指導の普及」を鑑みての事業です。

しかしながら、出発点でありました“訪問栄養食事指導”の介護保険利用者は、約四半世紀を経過しましたが、在宅療養を余儀なくされる退院

患者のいまだ5%程度と低迷しています。少しだけ先んじた者として責任を感じます。

大阪府栄養士会の登録栄養ケアチーム、日本栄養士会の認定栄養ケア・ステーションとして、以前からの事業を継続進展させることができいております。

介護保険関連では、居宅療養者訪問栄養食事指導事業は、在宅療養者・介護者に寄り添い、多職種と連携して「食」支援を継続しています。また、大阪市の介護予防事業では、「食べること」から要支援・要介護状態を予防する支援を行ない、さらに、介護予防ケアマネジメント検討会議への参加により多職種と共に高齢者の自立した生活が送れるよう助言を行っています。

医療保険関連では、慢性疾患患者への栄養食事指導を展開しています。

障がい者の就労継続支援B型において地域住民などの食支援事業や大阪市ひろば型つどいの広場事業にて3歳児未満乳幼児とその親への食生活・離乳食の不安や負担軽減の支援も行っています。

今後とも、地域住民、幅広い年代とその環境にタイムリーな食事情を察知し、地域における有益な栄養ケア・ステーションを目指していきたいと思っております。

仲谷鈴代記念賞

「枚方市介護予防・生活支援事業における 栄養士派遣指導事業」の活動報告

ひらかた地域活動栄養士会 栄養アドバイザー「萌」

枚方市役所 健康福祉部 地域健康福祉室 健康増進・介護予防担当

この度は、第24回（公社）大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」をいただき、誠にありがとうございます。

当会は、枚方市民の健康保持・増進のため、様々な栄養士活動を通して、地域への貢献に努めている地域活動グループです。枚方市より介護予防・日常生活支援事業の一環である「栄養士派遣指導事業」を受託し、訪問栄養食事指導を行ってきました。

対象者を体重増加目標群と減少目標群に分類し、体重の変化、食事の構成別改善率、食事の構成別摂取量の変化という3つの観点から調査したところ、2か月間という短期間にもかかわらず、7割近い人が食生活の改善に努め、成果を上げることができました。

たとえば増加目標群ではすべての食事の構成において摂取不足の人が多数いましたが、間食で栄養を補う大切さ、また選び方の指導を行うことで、適正量になった人が過半数を超えました。これは指導により栄養の摂り方を理解すれば、摂取量を増やせる人が多いということが考えられます。一方、副菜の摂取量は増えなかつ

た人が多く、これはエネルギーやたんぱく質の摂取を優先させるため、2か月間では時間的に副菜の指導まで至らなかったこと、またその大切さは理解していても少食であるため増やせない人もいることが考えられました。

減少目標群ではおかずが少なく間食が多い食生活になっている人が多く、たんぱく質不足、炭水化物過剰が懸念されましたが、指導により改善され、高齢者でも栄養についての理解と、簡単なおかずの作り方や食材の選び方を学べば、十分改善されることが示唆されました。

個々人の食生活に合わせた、わかりやすく実行しやすい指導が、高齢者の食改善につながり、また体力・気力の回復にもつながります。今後も「介護状態になることの予防、自立した日常生活」のサポートを目指し、会員同士切磋琢磨しながら指導力を向上させ、食を通じて社会貢献に努めたいと思っております。

最後になりましたが、今回の発表にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長先生をはじめ関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

仲谷鈴代記念賞

「食欲不振食に対するアンケート調査について」

地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター栄養部 坂本美輝

この度は第24回（公社）大阪府栄養士会研究発表会において「仲谷鈴代記念賞」をいただき誠にありがとうございます。

当院は、大阪市の中核病院として高度急性期医療を提供するとともに、「地域医療支援病院」として地域医療の中心的役割も担っています。がん医療の分野においては、地域がん診療拠点病院として、地域医療機関と連携し、専門的な質の高い医療を提供しています。

がん化学療法に伴う食欲不振は栄養状態の低下を促し、有害事象の増悪、治療効果の低下から治療継続の可否に影響を及ぼすと言われております。当院では入院中の食欲不振患者を対象に食欲不振食（以下、1品食）を提供していますが、より多くの患者に食べていただける献立にするためには継続的に評価・改善が必要であると考え、食事調査を実施しました。

提供している1品食9種類のうち、冷奴を除く全てのメニューは普通以上の評価であり、評価結果も各メニューで大きな偏りは見られませんでしたが、冷奴においては、「食事代を払ってこれか」という意見もあり、今後の献立改善では食べやすさだけでなく、費用面も考慮

していく必要があることが分かりました。また食欲が無く、食事が思うように摂れない時にお寿司、雑炊、パスタ、醤油・ソース味の料理を欲することについても、今回の調査で知ることができたので、この結果をふまえ新メニューを7月より導入しています。

その他にどのようなことで困っているのかについて調査したところ、調査対象者の半数以上が体重減少で困っていることが明らかとなりました。当院の1品食は栄養補給を目的とした食事ではなく、「少しでも口にできるもの」に重きをおいた食種でありました。1品食の喫食率が高くても、各メニューの栄養量は他の食種と比較すると少なくなっています。以上のことから今後の栄養管理において、喫食量の増加や有害事象の程度を見ながら摂取栄養量増加を目的とした食種の変更や栄養指導も併せて行っていこうと考えています。

最後になりましたが、今回の発表にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様、ご推薦いただきました座長の先生方に深く御礼申し上げます。